

第22回 研究会サロン 2003年10月29日

街歩き、TN Forum 2003 報告、北欧調査報告、アメリカ調査報告

■サロンレポート・その1

10月29日に行われたサロンは非常に盛り沢山の内容となりました。まず田沼団員によるTransnational Tanteidan Forum 2003の報告です。2回目となる今回は“Residential Neighborhood Lighting”（住宅近隣照明）というテーマに絞り、各国住宅照明の興味深い事例が紹介されたということです。200名近い参加者が真剣に聞き入る写真からは会場の熱気が伝わってきました。

続く早川団員はストックホルム、コペンハーゲンを中心に行った北欧調査について報告しました。窓辺を飾るキャンドルライトや低い色温度のインテリア照明などここでも主に住宅照明事情について話し合われました。スーパーのランプコーナーで販売されているマッチを発見し、「炎が『光源』として認識されているのでは」という鋭い考察は、面出団長とイアン・モラン団員によるアメリカのキャンドルライト談議へ発展するなど盛り上がりを見せました。

次に報告された武蔵野美術大学の田村団員、堀原団員によるヘルシンキ調査報告では、美しい光に出会った素直な感動が参加者に伝わったようでした。

奥中団員は10月17日に行われた東京・品川再開発エリアの街歩きの様子を報告しました。蛍光灯を使ったライン照明が多く見られたそうです。また、窪田団員はアメリカ西海岸の都市照明調査報告、在家団員は中国を訪れた際の照明体験を紹介しました。訪れる機会の少ない中国の地方都市やラスベガスなど変化の激しい都市の最新の照明事情を団員の目を通して知ることができるのもサロンの醍醐味といえるでしょう。旅行などで訪れた都市の照明を、重たい三脚を携えて調査し団員に紹介しようとする姿勢には大変頭が下がります。

今回のサロンは、参加した団員にとって照明について今一度考えるきっかけになったことでしょう。

（平岩洋介）



面出団長とイアン・モラン団員のディスカッション風景

■サロンレポート・その2

世界の照明を知れば知るほど、心の畑が耕されていく。照明探偵団をはじめ、世界の夜景展。そして今回のサロンと、自分の知らないことがたくさんあった。あかりというものがいかに大切であり、夜という時間を楽しく快適に演出してくれるかが心の中に染みわたった。

今回のサロンを通していえば、北欧のあかりが印象的だった。北欧は、夏と冬の日照時間が異なる。そして冬は、あかりが必要不可欠である。照明を学んでいる私にとって、そのような場に住む彼らの生活のあかりに興味がある。素直な感想は、北欧のあかりは人々の心に優しく包み込むように訴えかける。そんな印象を受けた。

私が鹿児島県、屋久島の山小屋で一晩過ごした際、闇の中でわずか一本のろうそくの明かりが、どんなに不安な心を落ち着かせ、どれだけ安らげてくれたことか。彼らにとってのそれもまた、同じようなことがいえるのではないか。

一方で日本はというと、コンビニや自販機など、そのような環境の中に暮らしているから、心にグレアという“ぜい肉”がつきすぎて、明るさの感覚が麻痺してしまっている状態にある。また、夜になって部屋を明るくし

てもらいたいときは、「電気つけて」という言葉が何のためらいもなく咄嗟に出てくる。つまり、それほどまでに日本人にとってあかりとは“電気”でしかない。あかりは、機能だけでしかないのだ。日本では、照明は煌々と輝くだけで、心ではなく、目に直接強く訴えかけてきてしまう。つまりグレアなのだ。心になんの訴えかけもないことで、ぜい肉だけがつき、本来の我々の明かりの価値観が狂ってしまっている。

今回のサロンでは私がアメリカに1ヶ月滞在した際の照明探偵レポートも行った。アメリカであかりを知るごとに、照明が人や建築とどのような関係があり、役割というものがあるのかといったものなのか多少なりとも解った。結果として、日本の抱える課題は大きい。しかし逆に考えればそれだけやりがいがあるということ。つまりこれからの照明を作りあげていく上での将来が楽しみでもある。

サロンやその他の照明探偵団活動をこれからも続けていき、心のぜい肉を落とし、そして耕して良い感覚を少しでも多くの人に味わってもらい、心に優しく届く照明文化を作りあげていきたいと思うし、そうなることを願っている。

（窪田照彦）

第 21 回街歩き

2003 年 1 月 20 日

LaQua (ラク - ア)



オーバルプラザを縁どる LED 器具

今回探偵団が向かったのは、2003 年 5 月にオープンした LaQua。東京ドームシティ内に開発されたスパ、ショップ&レストラン、アトラクションの融合商業施設である。都心にいなが心地よい時間とリフレッシュを提供する為、「東京の真ん中でリフレッシュを楽しむ」を基本コンセプトに登場した。遊園地にある色とり取りに変動する光を想像し、まずは華やかなイメージだけが頭に浮かんだ。

待ち合わせのクリスタルポイント目指してドームシティへと入って行くと、目の前には光に包まれた何もかもが現れた。大きな木々の冬の



夜空に浮かぶリング

姿はやや黄みがかかった光をたっぷりと浴び、足元丈の植栽には光の粒が散りばめられている。あらゆるものに光が仕込まれているような気さえする。平面照度は決して高くない。しかし、目の前に広がる光景によって十分すぎる程の明るさ感を出している。照度計では伝えられない、光が人に与える効果の面白い所だ。

光の効果はそれだけではない。LaQua には世界初のセンターレス大観覧車「ビックオー」がある。普通、観覧車が造る大きなリングは車輪のように何本もの軸が円の中心を繋ぐが、これにはその軸がなく中心がぼっかりと空いているのだ。照明計画の中で光は建築的な特徴を強調させたり映えさせたりすることもできるが、ここでもしっかりとその「世界初」は形どられている。夜空には光の「リング」がはっきりと浮かび、そのリングを駆け抜けるコースターはさりげなく照らされ、夜空をただのキャンバスにせず 3 次元空間が表現されている。この観覧車の特徴を生かした演出ではないか思う。観覧車から下を眺めると、水と光と音の競演する噴水ショー「ウォーターシンフォニー」が行われるプラザがあり、楕円形に取り囲まれた空間は棒状の LED 器具がその淵を飾っている。観覧車の側面にも使われているこの LED。一本一本の光の色や動きがプログラムされているだけでなく、一本の中でも 4 セグメントに回路分けされていてより細かく演出がコントロールされていて、その表情を滑らかに移り変えながら、華やかで心を楽しませる光の空間づくりをしている。



黄金色に染まる木のライトアップ



展望室の照明

ラクーアに近づけば近づくほど、光が色づき、変動し、様々な光で人を誘導し、また足を止めている。ディズニーランドを目の前にしたワクワク感を思い出してしまうような気分になる。ここでは光がふんだんに使われ、その役割が重視されているの是一目瞭然だが、施設の基本概念を改めて思い出すと、この光は役目を果たしているのかも知れない。光学的な分析だけでなくもっとソフトな面を念頭に、光で何を表現できるのか、何を光で表現したいのか、そんな目でまた歩いてみてはいかがでしょうか。

今回の街歩きでは棚からぼた餅的な発見は、ラクーアに隣接する文京シビックセンターの展望ラウンジである。25 階の少し低い角度から見るこぢんまりとした都心の夜景と華やかに彩られたラクーアを一歩引いて見ることでふっと甦る視覚的静けさを気持ち良く感じるのかも知れない。意外な展望スポットに熱心に辺りを見渡す皆を片目に心地よい「展望室」の光空間に気づく。特別にかっこいい照明がされている訳ではない。ただ、天井に段差をつけて直接照明が窓に反射しないように、光が窓辺に漏れないように配慮されている。水辺のレストランなどにもよく見られるが、反射を気遣って室内全体がただ暗い空間になりがちだが、ここでうれしいのは足元の明かりが非常によく取られているのである。十分に、そして必要な範囲だけに。適度な明るさを必要な所におくだけのシンプルな考慮だけれど、こんなさりげない光の心配りは大切にしていきたいものです。

(永田恵美子)

第22回 研究会サロン 2003年10月29日

街歩き、TN Forum 2003 報告、北欧調査報告、アメリカ調査報告

1月28日のサロンはスペシャルゲストを迎えて青山にあるカラーキネティクスジャパンさんのショールームをお借りして開催されました。ラクーアの街歩き報告、竹田薪能、イタリアの調査報告、100万人のキャンドルナイトの報告等が行われました。

サロンといえばここ最近ではLPAの2階で行うのが当たり前になっていましたが、今回はLPAを久々に飛び出して照明探偵団のスポンサーでもあるカラーキネティクスジャパンさんの協力のもと青山にあるショールームをお借りしていつもと違う雰囲気の中で盛大に行われました。団員の皆さんにとっては近年急速に需要が高まっているLED照明を間近に見ることができる貴重な機会です。加えて今回のサロンにはスペシャルゲストとして照明デザイナーの内原智史さん、綿貫真由美さんが参加されることもあり参加者募集を開始してから即30名の定員に達してしまうという人気振りでした。

まず、始めに1/20にラクーアで行われた街歩きの報告が行われました。ラクーアはスパ、レストラン、ショップ、遊園地が一つになった話題の複合施設です。といつもならここで団員の調査報告が始まるのですが今回はやはりいつもと違います。この話題の施設の照明計画を担当されたスペシャルゲストの内原さんと綿貫さんから計画のコンセプトや、シンボルである大観覧車ビックオーの照明手法など普段聞くことのできない貴重なお話をいただきました。時折面出団長から厳しい突っ込みが入ったりと内原さんと団長のディスカッションに団員の皆さんも真剣に聞き入っていました。

その後今回原稿を書いている私、会員番号0014番岡本より街歩きの報告が行われました。今回の街歩きはラクーアのほかに文京区シビックセンターの展望台に昇り東京の夜景を調査しました。330度ぐるりと見渡せるこの展望台は無料で利用できるうえ、それほど

混雑していないので静かに夜景を楽しむことができます。六本木ヒルズもよいですがここもなかなかの穴場ですよ。ぜひ一度足を運んで見て下さい。ラクーアの現状を報告すると内原さんの知らない器具が後から付け足されているなど照明デザイナー泣かせな一幕もありました。面出団長もサロンに出席したLPA所員もこういった現実にはみな共感していました。

次に井元団員より大分県の竹田薪能の調査報告が行われました。薪能といえば凛とした厳粛なムードを誰もが想像されると思いますが、井元団員から報告された薪能は我々の想像とは少し違っていて舞台を何台もの投光器でライトアップしている写真が紹介されました。せっかくの薪の明かりが台無しです。屋外で行われているイベントなので多少の人工照明は仕方ないのかもしれませんが他にやり方が・・・。と他の団員のみなさんとも思われたことでしょう。面出団長からもこのような光は照明デザイナーとして糾弾すべきだとの厳しい指摘がありました。

続いて田沼団員より先日行われた「100万人のキャンドルナイト」というイベントで行われた「キャンドルナイト@キャットストリート」が報告されました。キャンドルナイトとは冬至の日2時間電気を消す、というコンセプトだけを共有し、あとはそれぞれが自由に好きなことをする、という企画です。面出団長もこのイベントの監修をしています。照明探偵団はキャットストリートをキャンドルでライトアップするというイベントを行いました。一緒にイベントを盛り上げてくれた多摩美術大学、武蔵野美術大学、日建設計のキャンドルを使った美

しいパフォーマンス等が紹介されました。しかし当初はもっとたくさんの計画があったようなのですが、東京という街の中でライトダウンを行ったり、たくさんろうそくに火をつけて歩くということについて行政等から許可が下りず、実現できなかったアイデアがたくさんあったそうです。実際イベント当日も色々とはパニングがあったようです。既に次回の参加も決定しているとのことですが次回こそはと決意を新たにする田沼団員でした。

最後に橋本団員よりイタリアの調査報告が行われました。次々に出てくる美しい夜景写真と橋本団員の照明手法や建物等の細かい解説にみなさん興味津々といった様子でした。橋本団員のエンジンが全開になったところで今回のサロンは閉会の時間となりました。

その他カラーキネティクスさんから商品のデモンストレーションが行われました。今回紹介したラクーアでも使われている器具など、今最も注目されているLED照明だけに我々も色々勉強させていただきました。また田沼団員より新しくなった照明探偵団の会員証が紹介されました。先ほど私の会員番号を公開しましたが団員の皆さんにも会員番号入りのカードが発行されます。今後もどんどん会員が増えていって欲しいものです。これまで年会費1000円でしたが今後入会される方は5年で1000円と非常にお得になってます。今がチャンスですよ。

今後もいつもと違う場所でサロンをやりたいという希望や企画がありましたら事務局へご連絡下さい。照明探偵団は団員一人一人が主役です。

(岡本 賢)



バーのような雰囲気の会場



内原さんと団長のディスカッションの様子

『100万人のキャンドルナイト @ 原宿キャットストリート』開催！

2003/12/22



冬至の夜に行われたイベント『100万人のキャンドルナイト @ 原宿キャットストリート』。
“2時間電気を消してスローな夜を”をテーマにキャンドルの灯りで約700mの遊歩道を彩ったこのイベントに照明探偵団が参加しました。参加者たちはあたたかいキャンドルのあかりに包まれて幻想的な2時間を過ごしました。



■電気を消してスローな夜を

冬至の夜8時から10時の2時間だけ電気を消してスローな夜を過ごそう・・・ということテーマに面出団長の他、ライフスタイルプロデューサーの浜野安宏氏やキャンドルナイト呼びかけ人代表でもある竹村真一氏が監修したイベントが原宿キャットストリートで行われました。

これは、環境や省エネ、現代社会のライフスタイルについて考え直すとともに、人間的な時間のありかたを見つめるきっかけとして、昨年の夏至に行われたイベントの冬至版。夏至には、環境NGOが中心となって発案した“100万人のキャンドルナイト”にさまざまな分野のアーティスト、環境省や企業、自治体、各地の公共施設が賛同して、大きなうねりに発展し、全国で500万人（環境省推定）が参加して東京タワーや全国のランドマークの照明も消える、一大イベントとなりました。

■キャットストリートにキャンドルアート出現

開催場所は、原宿キャットストリートが表参道と直行する旧渋谷川約700メートルほどの暗渠の遊歩道。この遊歩道に照明探偵団、武蔵野美大、多摩美大のチームが中心となって沿道にある店舗前6箇所でキャンドルアートを作成し、イベントの拠点となりました。波打つように成形したアルミパネル前にキャンドル

ルを並べて鏡に映っているように見せたもの、異なる種類のスクリーンを透かしてあかりの表情を見せるもの、公園のジャングルジムを赤いトレーシングペーパーで囲い、中にキャンドルを入れた行灯・・・などなど工夫を凝らしたキャンドルアートの数々が通りを彩りました。

■街路灯を消灯したい・・・

たった2時間のイベントでしたが、公共空間での火を使うイベントと言うことで行政や商店街との調整が難航を極めました。今回は準備期間も少なく見送りましたが、今後の大きな課題としてふたつ。『街路灯の消灯』と『緑石へのキャンドルの配置』です。当日やはり残念だったのが遊歩道沿いに白々と点灯したままだった街路灯。キャンドルのあたたかなあかりとの何ともミスマッチな光景でした。やはりキャンドルの繊細なあかりを見せるにはまずベースとなる闇をつくる必要があるでしょう。そして、今は暗渠となった川の流れを通りに配置した光で可視化する。または、通行人が携帯したキャンドルで光の川を再現する。

キャンドルでなくては伝えられないメッセージを込めたイベントを2004年の夏至にも行う予定です。乞うご期待下さい。

(田沼 彩子)



1. 行灯を持って人々が集まる
2. hhstyle 前のキャンドルアート
3. スクリーン越しにキャンドルを見せる仕掛けも
4. 公園に突如出現したキャンドル行灯

リゾートのあかりを真剣に語ろうか

ここのところ減茶苦茶いそがしく動き回っているが、「今回は何処へ出張に行っていたのですか・・・」などと聞かれて、「いや実はタイのプーケットまで・・・」、と答える口にとっさに手をやる。会社の仲間3人と一緒に、プーケット島への立派な出張なのだが、ハワイ、バリ、モリジブ、プーケット、などという甘い匂いのする地に身をゆだねるということが、人目をはばかることのように（半ば罪悪のようにさえ）感じている様子だ。自分の状況を「様子」、などと遠巻きに見るのはおかしいが、最近をよくよく自分自身を観察しないと、面出薫という小動物の習性や脳細胞の中身がよく理解できないことがある。お前は本当に働き者なのか？ 怠け者を恐れているだけなのか？ 遊びと仕事の見境がないのか？ 何とも情けない始末。ともかく先週はLPAの葛西さん、謙太郎さん、菅又さんと一緒にプーケットのビーチに寝転んでいたことは事実なのだ。しかも仕事で。

最近、どういう風の吹き回しか「リゾートホテルの照明デザイン」を依頼されるようになった。やっと楽しくなりそうだが、実は私たちLPAはホテルの仕事に多くの実績がない。ましてやリゾートホテルの仕事などは初めてのチャンスなのだ。だから、そのような仕事が依頼されて初めて、少し焦りながら、「おい君たち、リゾートホテルに泊まりに行った方がいいんじゃない」という出張命令を出したのが去年のことだ。いそいそと男性社員が2名、ゲイと間違われること覚悟で、アマンやフォーシーズンズの高級リゾートに調査体験出張にでた。彼らは当然、けなげに部屋の中をスケッチしたり、光の状態を細かく写真に撮ったりするので、100%リゾートを楽しむ客の心持ちに近づくことはないのだが、他の客のしている仕草を少し真似して、プールサイドで寝転んでみたり、夕暮れにダイニングで海に沈む太陽を眺めてカクテルを飲んだり・・・ぐらいはしていたのだろう。帰ってくると、彼らの表情が少し緩んで見えた。本当にデザイナーというのは、サービス業であって、サービスされることになっていないところがあるものだ。カメラもスケッチブックも持たずに、無防備にリゾート地で時間を楽しむことが少ない。実に因果な職業といわざるをえない。

しかし私自身は小さいながらデザイン事務所を営む社長でもあるので、これまでに虚勢

を張って多くの都市型高級ホテルやリゾート施設に身をゆだねている。照明デザイナーは自分の目で見たものを信じるしかない職業だから、フットワーク軽く、世界中の異なった光に触れに行く。といっても、一つのリゾートホテルに滞在するのはもっぱら長くて2～3泊。数週間も棲家のようにして南国の太陽を浴び、トロピカルな料理に埋まった事はない。そして常に冷静に、高級ホテルが成り立つ理由をデザインの戦略や方法論から探っている。

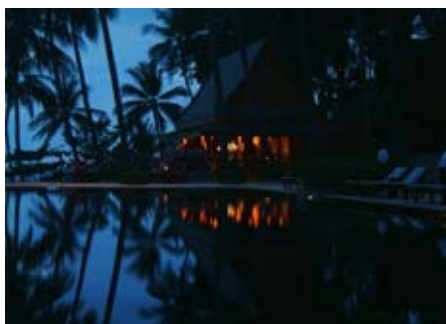
先週プーケットに行った時には、幾つかの異なるグレードのリゾートホテルを比較しながら視察した。同じビーチを共有するロケーションにあっても、大きく分けて3種類ほどの格の違いがある。アマンプリ、バンヤンツリー、デュジット、チェディ、セラトン、アラマンダ、・・・。。格の違いは一般的には宿泊料金の違いに置き換えられる。そして、まさしく格の違いは光の品質＝照明デザインの違いに表れている。安いホテルは光も安い。高いホテルでは断然、光の扱いに気が利いている。それは照明器具の値段の違いではなく、光のもてなしかたやグレードの相違、つまり心地よいリゾートの光の秘訣を知っているかどうかだ。

さあここで私からの出題。リゾートのあ

かりの五原則とは・・・なんでしょう？ それに深く答えるのがプロの照明デザイナーというものだ。私は私なりにプーケットのブルームーメントを眺めながら、探偵団B6カードにしっかりとそれをメモしてきたが、それを易々とここに公言するほど楽観的でない。LPAのクライアントのみがこの答えを知る優先権を持っているのだ。はっはっは。答えはそれぞれ自分で考えて・・・。「面出さん、五原則でなく三原則程度のほうが説得力あるのではないですか？」という仲間の質問。まったくその通り。七原則より五原則、そして三原則あたりが最もわかりやすい。大体3つ以上のものは誰もが忘れやすい。しかし大切なことは、何についても原則論を常に考えること。都市照明の7原則、病院照明の5つの原則、美術館照明の3つのゲート、などなど・・・。私もこれまで、ずいぶん勝手な原則論を言い散らかしてきたものだ。しかしそのようにして照明デザイナーの年輪は刻まれても行くもの。何が何の原則だか解らなくなってきたころに、一人前の職人になっているものだ。

さてそろそろ、本格的に21世紀のリゾートのあかりを解明し、新説を唱えてみましょうか。

（面出 薫）



アマンプリの夕暮れ / 白黒印刷では無理だろうな～



お洒落な Banyan Tree のダイニングルーム



私はほんの2時間。この人達は2週間だとか

照明探偵団倶楽部員証が新しくなりました！

ここ数年の間に従来の照明探偵団活動に加え、Transnational Tanteidan など活動範囲が海外にも広まり、多岐に渡るようになったのにもない、このたび照明探偵団倶楽部員証が新しくなりました。

これまでのロゴマークに加えて、Transnational Tanteidan のムシメガネを模した新しいロゴも入っています。

また、毎年 ¥1,000 ずつお振り込み頂いておりました年会費を廃止し、5 年ごとに会員資格を更新して頂くことにしました。5 年分の会員費はこれまでの年会費と同額の ¥1,000 です。

まだお手元に届いていない方は、事務局までご連絡下さい。



新しくなった倶楽部員証。裏にはお馴染みの”照明探偵団 5ヶ条”も書いてあります。

★★投稿募集中★★

照明探偵団通信 vol.19（次号）の原稿を募集しています。独自の照明探偵レポート、光に思う今日の日本、照明について知りたいこと、疑問に思っていることなどなど、テーマは何でも結構です。日頃ひかり、あかりなどについて思っていることや様々なレポートを照明探偵団通信に発表してみませんか。原稿は、e-mail で送付して下さい。メール上記述でも原稿テキストファイル添付でも OK です。

投稿お待ちしております！

照明探偵団・事務局
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-28-10
ライティングプランナーズ アソシエーツ内
TEL : 03-5469-1022 FAX : 03-5469-1023
e-mail: tanteidan@lighting.co.jp <http://www.lighting.co.jp/tanteidan/>

照明探偵団日記

今年の秋頃にトランスナショナル探偵団の本を和英併記で出版する予定です。内容は、これまでに撮りためてきた世界各都市の夜景 “World Lighting Journey” の写真の数々、昨年 8 月にストックホルムで行われた 6 都市の住宅照明についてのプレゼンテーション、照明探偵団の活動紹介などなど。文章を書くのも大変だけど、世界の各都市の夜景を撮影した膨大なスライドの山からとっておきの一枚を探すべく、毎日奮闘しています。今回夜景を掲載するのは約 20 都市の予定。進化する劇場都市・リヨン、ブルーモーメントの映える街・コペンハーゲン、技を競い合う光の博覧会・ラスベガス、急成長／爆発する夜景・上海・・・どの都市を取っても魅力的なタイトルがしっくりと馴染む、個性的な夜景のコレクションが出来上がりつつあります。スライドの中には今はもう見られない風景があったり、過去と現在を見比べられるものもあって、変化し続ける都市夜景ならではの楽しみ方も。乞うご期待下さい！

（田沼 彩子）

【照明探偵団の活動は以下の 22 社にご協賛いただいております。】

ルートロニアスカ株式会社 岩崎電気株式会社 小糸工業株式会社 株式会社菱晃 カラーキネティクスジャパン株式会社 松下電工株式会社 株式会社ウシオスペクス ヤマギワ株式会社 山田照明株式会社 マックスレイ株式会社 ニッポ電機株式会社 株式会社エルコ・トートー 株式会社ウシオユーテック 日本フィリップス株式会社 トキ・コーポレーション株式会社 東芝ライテック株式会社 大光電機株式会社 金門電気株式会社 小泉産業株式会社 マーチンプロフェッショナルジャパン株式会社 湘南工作販売株式会社 株式会社遠藤照明